

自由応募分科会 4

全体趣旨

岩下明裕（北海道大学・九州大学）

「北東アジアの海と島を考える：稚内・サハリン、対馬・韓国、与那国・台湾」

本分科会は、ボーダースタディーズのアプローチから地域としての北東アジアのトレンドを読み解こうとするものである。北東アジアは、内陸アジアと海洋アジアの交差路ともいえる地域で、一方で中露からモンゴルや東南アジアに向かう陸域をシアターとした競合と協力、他方で中露から朝鮮半島・台湾、日本へと海域をシアターとした競合と協力によって重層的に構成されている。ここに超大国米国の存在が影響を与えている。本分科会では、とくにオホーツクから日本海、東シナ海へと向かう海域をとりあげ、その中心に位置する日本と隣国の関係を比較・分析し、総合する。

与那国で勤務し、台湾との交流を構築した舩田、対馬から韓国を繋ぐ観光と地域おこしの実践に取り組んだ花松、サハリンの歴史と現在に詳しい天野の三つの報告をベースに、岩下が地域のトレンドを分析し、それぞれのボーダーの変化の意味を読み解き、日本の国境地域のみならず、ロシア、韓国、台湾をつなぐ北東アジア海域のダイナミズムを検証する。

「北東アジア」なる概念は、1990年代に隆盛をみたが、いまや死語のように見える。だが他方で、大国化するとともに強権的な姿勢を強める中国、先行き不透明な朝鮮半島情勢、いまだ存在感なきロシア、そして体制転換の予感さえある日本の現況をみるに、新たな北東アジア地域像を描く必要性は高まっている。本分科会はその手がかりをまず北東アジアの境界地域にあたる海と島嶼から見出さそうとするものである。

なお本分科会は、人間文化研究機構「北東アジア地域研究」プロジェクト（国際関係）の一環として提案され、学会関係者との協働により、実りある研究成果を得るためのプロセスとして位置づけられている。